

エネルギーの未来探る

弘大新学科開設記念でシンポ



長補佐 加藤

理事長 鈴木

今春、弘前大に自然エネルギー学科が開設されたのを記念して、弘大理工学研究科は28日、弘前市のアトホテル弘前シティでシン

ポジウム「地域エネルギーの未来を考える」を開いた。大学や自治体、企業などの関係者約200人が、地球環境産業技術研究機構(京都)の山地憲

基調講演で弘大に期待を寄せた山地所長

治研究所長らの講演を聞き、自然エネルギーの活用を巡る施策に理解を深めた。

日本エネルギー

ギー学会の会長も務める山地所長は基調講演で、地球温暖化対策などの政策を解説。弘大自然エネルギー学科は人文社会科学と連携して人材育成を目指す点に触

れ「エネルギー工学は工学の中でも、経済学などの視点が大事なので、ぜひお願いしたい」と述べ、文理融合の研究や県内資源の活用などに期待した。

自然エネルギー学科長の阿布里提教授は、同学科の基本方針や燃料電池、マグマ発電、バイオマスなどの研究テーマを紹介した。

また、県や弘前市、平川

市の担当者も、エネルギーに関する産業振興戦略や中心市街地での大規模な融雪インフラ構想などを説明した。

(鎌田秀人)

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp